

三、労働慣行

1、労働による定量性 収穫量は面積を基礎に定量されることが多いが、逆に労働によって面積を量る慣行が各地で行なわれていた。たとえば田うないは一人一日五畝、これが馬耕になって二反、機械になって四反から五



真波の鱒養殖の水源地



真波の鱒養殖の水槽

商店へ一括納入し、月一、〇〇〇円程度のものであったという。昭和十二年東北興業の資本を導入して、もとの資本二万円を十八万円に増資、東北窯業と改めた。戦争中は軍需指定工場となり五、五〇〇坪の工場に拡張した。しかし敗戦後、漸く立直ろうとした折、二回の火災にあい、現在漸く苦境を脱して復興をたどっている。